

## 国際理解教育/開発教育 学習指導(活動)案

## 【実践者】

授業者氏名	赤羽 晋治	学校名	松本市立明善中学校
教科(科目)・領域	総合的な学習の時間 特別の教科 道徳	対象学年(人数)	1年( 71名 )
実践年月日もしくは期間(時数)	2025年 10月 ～ 2026年 3月( 20 時間)		

## 【実践概要】

1. 単元名(活動名) : 松本魅力化プロジェクト ～松本の「観光」と「暮らし」を切り口に～					
2. 実践する教科・領域 総合的な学習の時間(3時間) 特別の教科 道徳(1時間)	3. 学習領域 総合的な学習の時間、特別の教科 道徳				
		1	2	3	4
	A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定) 異文化理解の視点を持ちながら、自分たちが住む松本の良さと課題を理解し、松本をよりよくしていくための問いをもち、探求しながら、自分なりのアクションプランを考えることができる。					
5. 単元の評価規準	①知識・技能	① 松本市の観光(インバウンド)の特徴と課題を理解している。 ② 外国人観光客や海外にルーツがある人たちと共生していく際の良さと課題を理解している。			
	②思考・判断・表現	① 松本の観光の特徴と課題を生かした自分たちの考えたアクションプランを、他者にわかりやすく発表することができる。 ② 外国人観光客や海外にルーツがある方たちと共生していくためにどうしたらよいか考え、自分なりの考えをもっている。			
	③主体的に学習に取り組む態度	① 地元松本への興味関心をもち、進んで調べ学習や友との話し合いに参画し、よりよい松本の観光のために自分たちに何ができるか考えようとしている。 ② 外国人観光客や海外にルーツがある方たちと共生していくために、日々の生活やこれからの将来の中で自分に何ができるか考えようとしている。			
6. 単元設定の理由・単元の意義					
【単元設定の理由あるいは単元の意義】 松本市では、コロナ禍以降のここ数年で駅前の再開発が進み、ホテルや商業施設が次々と整備されている。その一方で、昔ながらの通りや観光地の姿も変化しつつある。観光動向に目を向けると、国内観光客数は横ばいで推移しているものの、外国人観光客の増加が著しく、この傾向は今後も継続すると見込まれる。 また、松本市「多文化共生に関するアンケート報告書(令和6年度)」によれば、現在、松本市には約4,500人の外国籍住民が居住しており、その数は近年増加している。したがって、松本で生活するうえで外国人観光客及び外国籍住民のかかわりは、今後ますます重要な課題となっていく。 生徒たちは、このような近年の松本市の変化を感じ取りながらも、日常生活の中で深く意識する機会は少ない。そこで、「外国人観光客(インバウンド)」と「松本に暮らす外国籍住民」という視点から自分たちの住む松本市を改めて見直すことにより、地域の良さと課題に気づくとともに、多文化共生への意識を育むことをねらいとして、本単元を設定した。					
【児童／生徒観】 本校は松本市のやや郊外に位置し、これまで国際交流への取り組みはほとんど行われてこなかった。しかし、生					

徒たちは1学期末の宿泊学習で、インバウンドに成功している白馬村を訪れた。そこでスキー場の代表者やオーナーの方々から、白馬のインバウンドの光と影について直接話を伺ったことにより、生徒たちは「白馬＝インバウンド」というイメージを持つようになった。

一方で、自分たちが暮らす松本市もまたインバウンドで成果を上げている地域であることへの認識は十分でない。しかし、生徒たちがよく訪れるショッピングモールや駅前には次々と新しい店舗が開業し、外国人観光客や多言語の標識が目に見えて増加している現状がある。

また、生徒の多くは将来的に市内の高校へ進学し、その後も市内で生活を続けることが予想される。そのため、外国人観光客との関わりは今後の成長過程で避けて通れない課題である。また、日本全体においても、国内外の異文化との共生は、いわゆる VUCA (volatility, uncertainty, complexity, ambiguity 変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)と呼ばれる予測困難な社会を生き抜くうえで欠かせない力となっている。今回の学習を通じて、そのような多文化共生への意識を育むことをねらいとする。

さらに、本年度の1学年には、母親がフィリピン国籍や中国籍である生徒、また本人が中国籍である生徒など、海外にルーツをもつ生徒たちが在籍している。したがって、異文化理解は生徒にとって身近で具体的な課題である。本学習を通して、生徒たちが将来、海外にルーツをもつ人々と関わる際に大切にすべきことを考えられるようにもなってほしい。ただし、このテーマは大変デリケートな側面を含むため、指導にあたっては十分な配慮が求められる。

### 【教材観】

本単元では、「松本の魅力化」をテーマとし、生徒一人ひとりの興味・関心を出発点に、一ひとりの「問い」を設定し、自分なりの視点や切り口から探究活動を進めていく。探究の過程では、調べ学習にとどまらず、仲間との話し合いや地域の人々との交流を通じて、学びをより深めていくことを目指す。ただし、「問い」は何もないところから生まれるものではないと考える。ある程度の知識を獲得や、様々な人や事実、事象との出会いを通して生まれてくるものであると考える。

本単元は後期の総合的な学習の時間(約20時間)を通して行われる。本時は、そのような探究に取り組む前段階として位置づけている。松本市の観光の現状や住民の観光に対する意識、さらには松本に暮らす海外にルーツをもつ人々の意見を聞いた後に実施する授業である。本授業では、日本と海外の文化の違いについて考えることを通して、「松本の良さ」と課題」を多角的に捉え始めた生徒が、さらに一歩進んで「共生」の課題やその重要性に気づききっかけとなることを期待している。

### 【指導観】

指導対象学年は中学校1年生である。本学年では3年間を通じて総合的な学習の時間において「探究」のプロセスを繰り返し経験することを重視している。

探究的な学習の過程は、以下の4段階に整理されている。

①【課題の設定】体験活動などを通して課題を見だし、課題意識をもつ

②【情報の収集】必要な情報を取り出し、収集する

③【整理・分析】収集した情報を整理・分析し、思考を深める

④【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えをまとめ、判断し、表現する

(文部科学省『今、求められる力を高める 総合的な学習の時間の展開 ―未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現―』より)

この中でも、課題の設定、すなわち「問い」を立てることが探究の鍵であると考え、3年間を通して「問い」を深めながら、探究のサイクルを何度も回すことを目標に授業を構想していきたい。

また、この探究のサイクルを繰り返す中で得られる成果は、単に「問い」に対する結論にとどまらない。社会に存在する多様な課題に触れ、その過程で社会の多様性に気づいていくことも大切な学びである。本単元では「異文化理解」の視点を取り入れることで、探究の過程を通して多文化共生の意識を育むことをねらいとする。

## 7. 単元計画(全4時間)

時間	ねらい	学習活動	資料など
1 総合	白馬村と比較しながら、生徒の視点で松本市の良さや課題を考える。	1. 1学期に行った白馬宿泊学習の振り返り、白馬村の「よさ」と「課題」を考える。 2. 生徒たちの感じる松本の「良さ」と「課題」を考える。	令和6年度観光動向調査報告書(松本市観光課)



<p>【カード1】インドネシア人のムハンマドさんはイスラム教の教えでハラルでない食事を食べることができない。しかし、A市にはハラル対応のお店がなくレストランで食事をすることができない。</p>	<p>【カード2】アルゼンチン人のミシェリさんは、とある不動産屋さんでアパートを借りようとした際に、「外国人お断り」と言われて、借りることができなかった。</p>				
<p>【カード3】カナダ人のソフィアさんはおしゃれとしてタトゥーを入れている。しかし、タトゥーがあるために温泉に入ることができない。</p>	<p>【カード4】アメリカ人のジェイソンさんは日本に来て10年で日本語もペラペラだが在留カードを常に携帯していなければ警察に捕まる恐れがある。</p>				
<p>【カード1】 S「ハラルのお店が一つもないのはよくないから、各市に一つはハラル対応のレストランを作るべき。だから、あつてはいけないちがいだと思う。」 S「ハラル対応のお店を探せばいい。別の市にはあるはず。だから、あつてよいちがいだと思う。」</p> <p>【カード2】 S「これは絶対あつてはいけないちがいだと思う。『外国人だから』という理由だけで差別している。」 S「日本人より手続きがたくさんあるのはしょうがないと思うけど、そもそも借りられない、のはよくないと思う。」</p> <p>【カード3】 S「日本ではタトゥーはよくないイメージがあるからダメ。タトゥーを見て怖いと思う人もいるかもしれないから。」 S「でも、そもそもなんでタトゥーは日本ではだめなの？ソフィアさんはおしゃれのために入ってるだけなのに。」 S「タトゥーを隠すシールがあるって聞いたよ。だから、入りたかったらそれをすればいいから、そういうルールがあるのはあつていいちがいだと思う。」 S「でも、わざわざシールを買わないと入れないなんて不公平だと思う。でも、タトゥーをいやと思う人がいるのも事実だから難しい。」</p> <p>【カード4】 S「外国人の中には悪いことをする人もいるかもしれないから、在留カードは必要だと思う。」 S「でも、在留カードを持っていないだけで捕まるのはおかしいと思う。なんだか外国の人を差別しているみたい気がする。」</p> <p>4. グループの意見を全体で共有する。 T「『どちらともいえない』に分類し理由を教えてください。」 S「【カード1】宗教上の理由だから本人が買えることはできない。でも、だからといってA市に一人の人のために別にレストランをつくることも難しいから。」 S「【カード2】は絶対あつてはいけない！差別だと思う。」 S「【カード3】はタトゥーの捉え方が国によって異なるから難しい。どっちが正しいとかなないから。」 S「【カード4】は日本に住む人のことを考えたら在留カードの携帯はあつたほうがいいのかもしいけど、外国人からしたら大変。」 T「『どちらともいえない』に分類したカードの特徴はどんなことがありますか？」</p>	<p>まずは個人で考える時間をとり、その後グループ追求をする。</p> <p>・どうしてその分類にしたのか、理由を大切にするように伝える。</p> <p>・わからない言葉がある場合には、全体で取り上げ、説明する。</p> <p>・カード4については、場合によっては日本で活躍されている外国人タレントさんを例に挙げることでイメージしやすくする。</p> <p>自作「ちがいい」カードワークシート</p> <p>〈ホワイトボードの使い方〉</p> <table border="1" data-bbox="975 1196 1434 1532"> <tr> <td data-bbox="975 1256 1187 1402">あつてよいちがいい</td> <td data-bbox="1187 1256 1434 1402">あつてはいけないちがいい</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="975 1402 1434 1532">どちらともいえないちがいい</td> </tr> </table> <p>・ホワイトボードを活用し、それぞれの班の意見を一斉に見ることができるようになる。</p> <p>・聞いてみたいことがあるグループへの質問タイムを設け、それぞれのグループの分類の意図を共有する。</p> <p>・似た経験がない場合には、4つの中で一</p> <p>ホワイトボード、ホワイトボードマーカー</p>	あつてよいちがいい	あつてはいけないちがいい	どちらともいえないちがいい	
あつてよいちがいい	あつてはいけないちがいい				
どちらともいえないちがいい					

	<p>S「それぞれの国で宗教や慣習、文化が異なるから難しい。」</p> <p>5. 今までに自分の経験で似た経験がないか、これからそうした場面に遭遇したらどうするかを考える。</p> <p>S「前に電車に乗ったときに、外国人の人たちがずっとおしゃべりしててうさかった。でも、あれもあの人の国では普通のことだったのかもしれない。」</p> <p>S「前に美術館に行った時に外国人が写真を撮っていて注意されていた。でも、海外の美術館だともしかしたら写真撮影がいい場所も多いのかもしれない。」</p> <p>S「自分が『え！？』と思っても、その人にはその人なりの別の理由があるのではないかと考えることが大切だと思う。」</p> <p>S「決めつけたりせず、聞いてみるのが大切だと思う。」</p>	<p>番悩んだ事案について、具体的な行動を考える。</p> <p>・「日本と海外のちがいがいい」だけでなく、「ちがいがいい」は普段の生活の中にもあることに言及している生徒がいれば全体に共有する。</p>	
まとめ (5分)	<p>6. 本時で学んだことや気づいたこと、今後の生活に生かしていきたいことを振り返る。</p> <p>S「松本には外国人観光客が増えているから、自分が『ちがう』『変だ』と思っても、別の理由があるかもしれないと思って、話しかけたり、接したりしたい。」</p> <p>S「今回は『日本と海外のちがいがいい』だったけど、日本人同士でも『ちがいがいい』はあるから、友達とのかかわりの中でも、相手の背景にあることを考えて生活したい。」</p>	<p>・海外につながる生徒もいるため、シェアする内容については配慮する。</p>	

## 9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)

- ・日本の文化を相対的に捉え、海外との違いに気づくことができる。【知識・理解】
  - ・自分の考えや根拠を示しながら、文化や価値観のちがいを『あってよい』『あってはならない』『どちらともいえない』に分類し、その理由を説明できる。【思考・判断・表現】
  - ・異文化理解の視点から、異なる文化的背景をもつ人々と共に生活していく際に自分が配慮すべきことや自らの行動の在り方について考えている。【主体的に学習に取り組む態度】
- 上記を、友との話し合い、ワークシートより評価する。

## 10. 学習方法および外部との連携

- ・英語の授業における JICA 青年海外協力隊(アフリカ隊員)との交流
- ・松本市観光課への松本市の観光についてのヒアリング
- ・3時間目のパネルディスカッションに向けて外部講師(ALTら)との授業の目的のすり合わせと内容の確認
- ・各テーマに関連した住民との交流

## 11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み

- ・学年の先生方と個別および全体での総合的な学習の時間の中で「国際交流の視点」を取り入れることの意識のすり合わせを図った。
- ・英語科の先生と教科横断的な学びの実現可能性について話をし、青年海外協力隊との交流に至った。

## 【自己評価】

12. 苦労した点 ※学習活動が展開する中での苦労や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。
- ① 単元構想
- 今回、本研修を受けた目的ともかわるが、この3月まで JICA 青年海外協力隊としてブラジルで活動をし、この4月から日本の学校に復帰し、かつ総合的な学習の時間の主任を任せさせていただくにあたり、「総合的な学習の時間をダイナミックに使って、生徒たちに異文化理解について考えを深めてほしい」と思っていた。そこで、文化祭明けの後期の総合的な学習の時間をどのように、生徒たちのにとって学びのある学習にするかを考えることに苦労した。学校、生徒の実態を考え、総合的な学習の時間のテーマを「松本の魅力化」と据えつつ、そこに、道徳の授業で「日本と海外の違いをさらに深掘りする」という構造にすることに一番苦心した。
- ② 前時のパネルディスカッションのパネラー探し
- 単元構想が出来上がり、パネルディスカッションの内容が重要な位置づけになり、パネラーを探す段取りになり、パネラー探しと、パネラーと総合的な学習の時間でねらっていることと今回のパネルディスカッションの目的を共有することに時間がかかった。また、細かい点で言えば、年度当初に決まっていなかった講師を呼ぶことへのハードルが高く、パネラーに来校してもらう際の謝礼や交通費の出所をどうするかを管理職らと相談することに苦心した。

## ③ 学年の先生方とのビジョンの共有

20時間の総合的な学習の時間のビジョンと、その中で「松本の観光や暮らしに関する基本的な知識や考え方を身に着けるための4時間」という小単元の位置づけを丁寧に説明し、独りよがりの授業(単元)にならないように、夏休み中から何度も学年の先生方に共有を図った。特に、本時に当たる道徳の時間は各クラスで行うことを想定していたため、同じ学年の他クラスの先生には、特に想いとビジョンを伝えながら理解を得ることに尽力した。

## 13. 改善点

## ① カードの内容

本時、結果的に「あってはいけない」にカードを分類したグループは一つしかなかった。また、その一グループもグループ内では意見が割れており、「満場一致の『あってはいけないちがいがいい』」ではなかった。授業後の振り返りでも大津先生、藤原先生より「人権や教育にかかわる差別的なカードを入れたらよかった」というコメントをいただいた。本来であれば、生徒たちにとって身近な「学校の中のちがいがいい」に着目することも考えたが、今回、単元の流れから「日本に住む(来る)外国にルーツのある『大人』」を対象にカードを構想した。そこで、「外国人のアパートを借りる際の問題」をカードに加えることにした。(本授業案では修正済み)

## ② 社会科的な振り返り(まとめ)

授業後の振り返りで藤原先生より「社会科的な振り返りもあるとよかった」とコメントをいただいた。本授業は「道徳」の授業であったこと、またグループ内でも議論が白熱し、意見がまとまらないグループもあったことから道徳的なまとめを前面に出した振り返りにしてしまった。「宗教、人権、文化・慣習」など各カードの内容を掘り下げ、それぞれのちがいを社会科的な見方で捉えなおす時間をとるべきだったと反省した。

## ③ 自分の体験と照らし合わせて考える時間の設定

本時では、授業案にあった「5. 今までに自分の経験で似た経験がないか、これからそうした場面に遭遇したらどうするかを考える。」を行うことができなかった。その理由は授業時間の問題と、生徒が振り返りを記入する前に、グループ内で意見が割れた生徒たちの意見から「今、みんながやった話し合いでさえ意見が割れるんだから、国が違ったら意見が割れて当然だよ」という話を私がしたため、生徒が自分事として捉えていると感じたためである。しかし、授業後の大津先生のコメントでも「自分の経験と照らし合わせることの重要性」を教えていただき、そのことをさらに深く考える時間を別で設けるなどの工夫が必要であったと感じた。

## 14. 成果が出た点

## ① 前時とのつながり

前時のパネルディスカッションで多くの生徒が日本と海外のちがいに着目していたので、その流れで本時をスタートすることができ、本時の動機づけがうまくできていたように感じる。

## ② カードの色分けとホワイトボードの使い方

ちがいのちがいがいいカードを色分けし、ホワイトボードに張ったことで、カードの分類をパッと見てわかるようにした。そのおかげでホワイトボードを動かしながら似たグループごとのまとめ、異なる意見のグループを際立たせて意見を聞くことができた。

## ③ カード(ちがいがいい)の内容

最初にブラジルのちがいを全体で共有した際に、すでに意見が割れており、各グループでの追求でも白熱した議論がなされた。特に一つのグループでは、意見がまとまらず、全体追求の場でも議論が続いた。カードの内容は議論を呼ぶ内容ではあったと思う。

## ④ グループ追求の時間

今回、事前の想定でもなるべくグループ追求の時間を短くし、全体追求を長くすることを考えていた。理由は、グループで意見がまとまらないこともあることや、ほかのグループの意見を聞くことで考えが凝り固まらず、視野が広がると考えたためである。実際、10分でほぼすべてのグループが分類ができ、できなかったグループはこのまま話し合いを続けても意見がまとまらないだろうと思われる状態であったので、良かったのではないかと考える。

## 15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)

## ①A 生の学び

10/7 「松本市の魅力～観光客の視点から～」

振り返り「自分が住んでいるところなので、あまり魅力がないと思っていたけど、今回、観光客の意見を聞いて、松本市の魅力が分かった気がした。最近は海外の人たちが来ているので、松本市の魅力がより多くの人に伝わってほしいです！」

10/14 「松本市の魅力～住民の視点～」

振り返り「私は松本は田舎で嫌だと思っていたけど、大人の意見を聞いてよいところだったんだと改めて実感した。」

たしかに他の県に比べると田舎だけど安心、安全で暮らせているなど思ったので、大切にしていきたいです！」

10/21 「松本の魅力～外国人住民の視点～」

振り返り「3人の話を聞いて、改めて自分が安心、安全に暮らせているんだなと思った。一番印象に残ったのは、電車が時間通りに来るから急がなければならないということ、当たり前だと思ってはいけないなと思った。」

松本のことを「田舎で魅力がない」と思っていたA生は、観光客・日本人住民・外国人住民それぞれの意見(視点)を得ることで、松本に対して、自分にはなかったプラスの側面に気づくことができた。特に、3時のパネルディスカッションから「自分のあたりまえは当たり前ではない」ことに気づいた。

A生は、本時の振り返りで「海外でも日本から来る人のことを考えてやっているんだから、日本もそうした方がいいと思う。同じ日本人でも考え方が違ったので、色々な人がいるなと思った。」と記述し、日本国内でも多文化共生が重要であることに気づいた。

## ②B生の学び

10/7 「松本市の魅力～観光客の視点から～」

振り返り「長野県にある松本城や上高地などは外国人の人たちにも多く知られていることが分かった。」

10/14 「松本市の魅力～住民の視点～」

振り返り「自分たちの班で考えた松本市のいいところは住民の人たちも同じように考えていていいなと思った。課題点にも共感するところが多くあった。」

10/21 「松本の魅力～外国人住民の視点～」

振り返り「自分たちは感じていなかった課題点があつて面白いと思った。外国人から見ても松本はいいところばかりでやっぱり素敵だなと思った。」

B生は観光客・住民の視点を得る中で、自分のももとの意見を比較しながら、その違いに面白さを感じた。

本時を終えてB生は、意見の違いの大事さに関心を寄せながらも、国の文化やルールなどがあるために違いをすり合わせることの難しさに気づいた。

本時の振り返り:「先生が話していた通り、同じ日本人でも意見の食い違いがあるのが個人的には大切だと思った。だけど、国は国のルールがあるから、いい違いなのか、あつてはいけない違いなのか、考えるのが少し難しかった。」

## ③C生の学び

10/7 「松本市の魅力～観光客の視点から～」

振り返り「松本市は「食」が人気ということが分かりました。確かに食の文化は日本の中でも有名なものが違うし、外国とも全然違うので魅力的なんだなと思いました。」

10/14 「松本市の魅力～住民の視点～」

振り返り「松本市は、国宝の松本城があつたり、治安が良いけど渋滞があつたり、遊ぶところが全然ないということが分かりました。それを外国から移住してきた人はどう思っているのかしっかりと学びたいです。」

10/21 「松本の魅力～外国人住民の視点～」

振り返り「松本市は、私たちと同じような考えの、良いところ、改善点があることと、外国とは全然違うことが分かりました。」

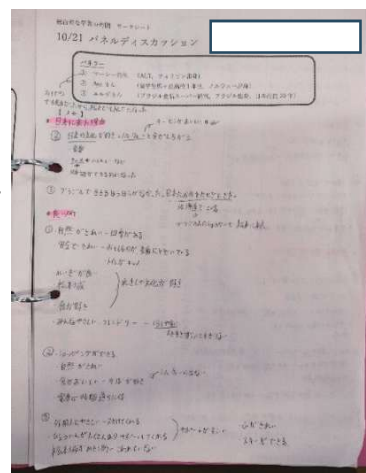
C生は、学びを進めるうちに「海外から移住してきた人はどう思っているのか」と、自分以外の人の意見に関心を持つようになった。

パネルディスカッションでは、「良いところ、課題」など項目建てしながら話をまとめるなど、パネラーの意見を自分なりに整理し、理解しようとする姿が見られた。

本時の振り返りでは、1人1人の考えや感じ方の違いに着目し、「一人ひとりの意見を大切にしよう」と思うなど、異文化尊重の精神を身に着けた。

本時の振り返り:

今日学んでみて、1人1人の考え方は違うし、感じ方なども違うので、ひとりひとりの意見を大切にしようと思いました。外国とのちがいがたくさんあるけど、ここは日本なので、日本の考え方を尊重した方が



いいと思う。でも、外国では、その国を尊重したらよいと思いました。

#### ④D 生, E 生の学び

D 生 本時の振り返り:

「グループの中でも意見がバラバラになったから、もっと他国の人とかかわるのはとても大変だと思った。難しい内容だったけれど、他国のことを勝手に決めつけたり売るのはいけないことだと思った。それぞれ事情があるから、決めつけるのはダメだと思った。」

E 生 本時の振り返り:

「今回の授業は少し難しかった。考え方がみんな同じとは限らないから、意見の一致が難しかった。今後、外国人とかわるようになって迷うことが出てくると思った。その時は、自分の意見だけでなく、相手の意見も深く聞いてみたい。」

D 生, E 生は、本時の授業の振り返りで「難しかった」という趣旨の振り返りを行った。本時、友と意見をすり合わせる過程で、人と人との考え方の違いに気づき、その違いを埋めあわせる多文化共生の難しさと大事さに気づいた。

#### 16. 授業者による自由記述

本校は国際交流の意識があまりない学校であり、生徒が国際交流の意識をもつきっかけとなる小単元になることを願いとして授業実践を行った。4時間の構成の小単元を終えて、生徒たちは「自分たちの当たり前が当たり前ではない」ことを、言葉ではなく、具体的な国と国のちがいや経験として感じる事ができたように感じる。

本年度、ユネスコの「日韓教師対話」にも参加させていただき、韓国とのつながりもできたことから、授業外で「韓国文化体験講座」や3年生の総合的な学習とコラボして韓国の学校との交流を計画している。(11、12月)。

今回、夏休みに本研修に参加し、全国の先生方と話をする中で、国際交流や異文化理解を学校の中で進めていくにあたり、やりたいことがあってもできない葛藤や逆に学校の風土として国際交流が行いやすい学校など、学校の特徴や学年のカラーなど様々な要因が大きく関係しており、一概に「よい国際理解教育」はないように感じた。

同時に、先生方の熱い想いに触れ、私自身も「もっと何かしたい」という想いを強くした。先生のもつ「思い」を出発点に、学校や生徒の実態に合わせて、「国際理解教育」を進めていくことが大事だと感じた。

今回、実際に授業づくりをする中で、学年の先生方との共有を図る中で「これこそ異文化理解だな」と感じる場面が多々あった。自分の想いを押し付けるだけではなく、教師自身が「異文化理解」の視点を持ちながら、本校に合った形で、今後も国際理解および日々の教育活動を進めていこうと思った。

#### 【参考資料】

単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データソースなど

- ・松本市観光統計分析  
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/115239.pdf>
- ・令和6年度観光動向調査報告書(松本市観光課)  
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/112692.pdf>
- ・令和6年度松本市観光における市民意識調査結果(松本市観光課)  
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/109554.pdf>
- ・松本市 多文化共生に関するアンケート報告書(令和6年度)  
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/111908.pdf>
- ・開発教育推進セミナー 編(1999)『新しい開発教育のすすめ方: 地球市民を育てる現場から』古今書院
- ・学びのプログラム集 —2023年度 JICA 中国・四国 教師海外研修 授業実践報告書—  
[https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/activities/kaihatsu/sougo/\\_icsFiles/afldfile/2025/04/21/diverse\\_society\\_2023.pdf](https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/activities/kaihatsu/sougo/_icsFiles/afldfile/2025/04/21/diverse_society_2023.pdf)